



加藤 克夫教授

(主要経歴)

- 1945年7月 秋田県に生まれる
1964年3月 山形県立酒田東高等学校卒業
1969年3月 京都大学文学部（史学科西洋史専攻）卒業
1969年4月 学校法人大阪経済大学職員
1977年4月 立命館大学大学院文学研究科修士課程（史学専攻西洋史専修）入学
1983年3月 立命館大学大学院文学研究科博士後期課程（史学専攻西洋史専修）単位取得満期退学
1983年4月～1996年3月 大阪外国語大学、立命館大学、帝塚山大学、三重大学の非常勤講師等
1996年4月 島根大学法文学部助教授
2004年4月 同 教授
2011年3月 同 退職

(島根大学での主な役職)

評議員
法文学部副学部長

(主要業績)

- 「戦間期フランスの旧出征軍人運動—『二月六日事件』と『危機』への対応」『立命館文学』433-434号、1981年
- 「旧出征軍人運動とフランス人民戦線」『立命館文学』466-468号、1984年
- 「一九三〇年代後半のフランスの平和主義」『立命館文学』496-498号、1986年
- モーリス・アギュロン著、阿河雄二郎、加藤克夫、上垣豊、長倉敏訳『フランス共和国の肖像——闘うマリアンヌ 1789-1880』(共訳) ミネルヴァ書房、1989年
- 望田幸男、野村達郎、藤本和貴夫、川北稔、若尾祐司、阿河雄二郎編『西洋近現代史研究入門』(共著) 名古屋大学出版会、1993年、[『同 増補改訂版』、1999年]
- 「フランス・ファシズム論の『革新』」『立命館文学』534号、1994年
- ミシェル・ヴィノック著、中谷猛、川上勉監訳『ナショナリズム・反ユダヤ主義・ファシズム』(共訳) 藤原書店、1995年
- 「E. ドリュモン『ユダヤ人のフランス』を読む——九世紀末『もう一つのフランス』の一断章」『立命館言語文化研究』第8巻第2号、1996年
- 「フランス革命前のユダヤ人解放論—『二つの解放の道』を中心に」『立命館文学』558号、1999年
- 「年間経費から覗いたユダヤ人社会—アンシアン・レジム期のメッスのユダヤ人共同体」『地域に根ざして』(田中先生退官記念文集)、1999年
- 「『異邦人』から『国民』へ—大革命とユダヤ人解放」服部春彦、谷川 稔編『フランス史からの問い』山川出版社、2000年
- ピエール・ノラ編、谷川 稔監訳『記憶の場—フランス国民意識の文化=社会史 第一巻 対立』(共訳)、岩波書店、2002年
- 『近代フランスの反ユダヤ主義』[第一部「近代フランスのユダヤ人—第一帝政と『同化』」、第二部「『ラ・リブル・パロール』紙第一署名記事・(第一面)大見出し—覧」(1892.4~1902.12)](平成11~13年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告書)、2002年
- 望田幸男編『西洋の歴史基本用語集 [近現代編]』(共著) ミネルヴァ書房、2003年
- 「第一帝政とフランス・ユダヤ人—『同化』のイデオロギーと長老会体制の確立」『社会システム論集』(島根大学) 第8号、2003年
- 「近代フランス・ユダヤ人のアイデンティティ試論—長老会体制の成立とフランコ・ユダイスム」『立命館言語文化研究』第15巻第4号、2004年
- 「19世紀フランス・ユダヤ人の『個』と『共同性』」友田卓爾編『西洋近代における個と共同性』溪水社、2006年
- 「第二次世界大戦期フランスの『強制収容所』とユダヤ人迫害の『再記憶化』」『社会文化論集 (島根大学法文学部)』第3号、2006年
- 中井義明・佐藤専次・渋谷 聡・加藤克夫・小澤卓也『教養のための西洋史入門』(共著) ミネルヴァ書房、2007年、他